

令和3年度 東京都立志村学園 学校運営連絡協議会実施報告書  
(就業技術科、肢体不自由教育部門)

1 組織

(1) 東京都立志村学園 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成 副校長、主幹教諭 (就業技術科、肢体不自由教育部門) 計3人

(3) 内部委員の構成

校長、副校長 (3人)、経営企画室長、教務等を担当する主幹教諭 計7人

(4) 協議委員の構成

元都立高等学校民間校長、創価大学准教授、NPO法人地域ケアサポート研究所、  
板橋区肢体不自由児者父母の会会長、就業技術科卒業生保護者代表 計5人

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会 (第1～3回) 開催日時、開催場所、出席者及び内容

第1回 令和3年7月13日 (火)

出席者：協議委員1人、内部委員6人

学校長挨拶、委員紹介、本年度の学校運営連絡協議会の運営について、本校概要説明、  
今年度の取組について (意見交換)

第2回 令和3年10月21日 (木)

出席者：協議委員3人、内部委員7人

学校長挨拶、重点方針について、オンライン評価方法について、授業見学について、  
GIGA 端末を使った指導について (意見交換)

第3回 令和4年2月16日 (水)

出席者：協議委員3人、内部委員6人

学校長挨拶、学校経営計画進捗状況報告。評価における課題の改善策等について (意見交換)、  
評価委員による職員会議での提言内容について

(2) 評価委員会

第1回 令和3年7月13日 (火)

出席者：評価委員1人、内部委員3人

副校長挨拶、評価の進め方について、評価項目の設定について

第2回 令和3年10月21日 (木)

出席者：評価委員3人、内部委員3人

副校長挨拶、今年度の評価の進め方について、今年度の学校評価項目の再確認、  
今後の取組計画について、事務連絡

第3回 令和4年2月16日 (水)

出席者：評価委員3人、内部委員3人

就業技術科と肢体不自由教育部門の保護者・教職員の評価結果から見える課題について、  
結果を元に職員会議での全教職員に対しての提言内容の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価 (学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

- ① 学校経営
- ② 学習指導
- ③ 進路指導・キャリア教育
- ④ 生活指導
- ⑤ 特別活動・保健指導・入学相談・交流教育
- ⑥ 能力開発・働き方改革
- ⑦ 重点方針について

## (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

### 就業技術科

・ 12月 生徒 (1年)	対象: 80人	回収: 78人	回収率: 98%
・ 12月 生徒 (2年)	対象: 79人	回収: 78人	回収率: 99%
・ 12月 生徒 (3年)	対象: 79人	回収: 77人	回収率: 98%
・ 12月 保護者 (1年)	対象: 80人	回収: 66人	回収率: 83%
・ 12月 保護者 (2年)	対象: 79人	回収: 57人	回収率: 72%
・ 12月 保護者 (3年)	対象: 79人	回収: 58人	回収率: 73%
・ 12月 教職員 (企画室含む)	対象: 69人	回収: 69人	回収率: 100%

### 肢体不自由教育部門

・ 12月 児童・生徒	対象: 40人	回収: 37人	回収率: 93%
・ 12月 保護者重点方針	対象: 95人	回収: 87人	回収率: 92%
・ 12月 保護者	対象: 95人	回収: 78人	回収率: 82%
・ 12月 教員	対象: 51人	回収: 56人	回収率: 100%
・ 12月 学校介護職員	対象: 27人	回収: 27人	回収率: 100%
・ 12月 看護師・企画室	対象: 26人	回収: 26人	回収率: 100%

## (3) 主な評価項目

### 就業技術科

人権の視点、教師の専門性について、自立・社会参加について、地域社会及び保護者からの信頼について、教科学習について学校評価を行った。原則、3年間は同じアンケートを取り、年度ごと比較を行う。

### 肢体不自由教育部門

重点方針については、年ごとに違うため項目ごとの比較を行わない。昨年度同様の学校評価項目については、前年度との比較をすることで評価を行った。

## (4) 評価結果の概要

### 就業技術科

#### < 取組評価 (保護者評価より) >

重点方針については、「常に生徒の生命を第一に考え、学校経営を行う」の項目では、保護者は92点と評価は高く、概ね適切に行われていると回答した。「マスクの着用・手指消毒の徹底」については、保護者は91点と評価は高く、感染症対策を心掛けていることが伺えた。「リアル (見学や体験) とデジタル (動画・画像など) を組み合わせたハイブリッドな広報活動を進める」では、保護者は80点を超え、高い評価であった。

保護者への質問項目27項目中、18項目で70点以上の評価であり、11項目で80点以上の評価をしているなど、学校経営計画達成の実現に向けて取組をしているとおおむね認められた。評価の低い項目は、「就業技術科と肢体不自由教育部門の2部門あるメリット」、「教職員のライフワークバランス」、「若手教員等の人材育成」において、50点に満たない項目もあり、人材育成やワークライフバランスの取組の成果を保護者に向けて周知の方法が課題であった。

#### < 成果評価 (教職員評価より) >

重点方針については、7項目中6項目で85点を超え、おおむね高い評価であったが、「対面式の授業や実習などリアルな学習の充実を図るとともに、オンラインやオンデマンド、ハイブリッド方式による学習活動を推進する。」では、75点と他の項目に比べると低かった。

教職員の取組において、人権教育推進では過去3年間 (91点、95点、89点) と高い得点を維持しており、生徒一人一人を大切にされた指導を行っているとおおむね自己評価した。教職員への

質問項目 27 項目中、22 項目で 70 点以上の評価であり、7 項目で 80 点以上の評価をしているなど、学校経営計画達成の実現に向けて取組をしているとおおむね認められた。

#### <成果評価（生徒評価より）>

重点方針については、生徒はソーシャルディスタンスや三密に気を付けることに対して意識が低かったが、「マスクの着用・手指消毒の徹底」については、生徒自身も感染症対策を心掛けており高い評価であった。

生徒への質問項目における「良かったこと、成長したこと」の項目については、全質問の平均得点が 69 点であった。特に、「いじめはどんなことがあってもダメ」が 94 点と高得点であった。「入学して良かった」の項目では 3 年間（91 点、87 点、84 点）継続して 80 点を超えており、おおむね志村学園の教育活動に評価を得ることができた。「志村学園に入学後に生徒の成長したことについて」の項目では、「社会（電車・バス・公共施設等）のマナーを意識し守るようになった」の評価が 3 年連続で 80 点と高かった。

#### 肢体不自由教育部門取組評価

##### <保護者評価>

通常の学校評価については、26 項目中 11 項目が前年度の評価より高く、「A：そう思う」という評価をしているのは、26 項目の平均で 56%、昨年度の 56%と同ポイントで、前々年度の 47%を大きく上昇している。

前年度 90 点以上を獲得した 5 項目、質問 1「人権に配慮し・・・」、質問 2「安心して学校に送り出していますか」質問 3「4Sについて」質問 7「面談や保護者会で十分な話し合いが来ていますか」質問 8「相談がしやすいですか」は、今年度も 90 点以上、質問 4「教職員・経営企画室の対応は適切ですか」はわずかに落とし 87 点ではあったが、引き続き高得点であった。質問 12「災害時学校は安全で安心できる「対策・対応ができていますか」が 91 点に達した。今年度、大きく上がったのは、質問 9「・・・ICT 機器等の支援機器を十分活用していますか」で、昨年度 67 点から 83 点になった。

昨年度との比較で、評価得点の大幅に下がった項目は、2 項目あった。質問 17「医療的ケアの推進についての取り組み・・・」（61 点→49 点）、質問 25「・・・人材育成の組織的取り組み」では、52 点→36 点で最も低かった。

重点方針の評価については、昨年度は 85 点を超える評価のものはなかったが、今年度は、4 つの質問で 85 点以上の評価を得た。大きな項目 1「生徒の生命を第一に考え、学校経営を行う。」の質問 1.2 の平均が 81 点→90 点と、質問 3.4 の「・・・オンライン授業・PCR 検査の協力により安全安心な学習環境を整えることができましたか」では、91 点、「・・・都のガイドラインに沿って教育課程を柔軟に実施されていましたか」85 点であった。一方で、質問 5.6 での「リアルな学習とオンラインやオンデマンド、ハイブリッド方式による学習活動の推進関係」の質問では、平均 73 点、となっている。

##### <教職員評価>

教員の通常学校評価については、すべての項目について昨年度と同じか、上昇しており、高い自己評価となっている。「A：そう思う」という評価をしているのは、26 項目平均 52%で、昨年度 46%、前々年度 39%から 2 年連続上昇している。

評価得点で高かったのは、昨年 90 点以上だった質問 1「人権に配慮し・・・」、質問 19「肢体不自由教育の専門性を高め・・・」質問 20「学校医・・・等や保健室スタッフとの連携・・・」の 3 項目である。さらに今年度は、質問 17「医療的ケアの推進についての取り組み・・・」が 85 点→90 点に上昇した。

学校介護職員は、「A：そう思う」という評価をしているのは、26 項目の平均で 64%であり、昨年度 60%、前々年度 57%から 2 年連続上昇した。85 点以上の項目は 5 項目も増え、19 項目であった。90 点以上の高得点項目も前々年度 4 項目、昨年度 9 項目から 12 項目になった。昨年度の比較で、評価得点が下がった項目は、質問 2. 7. 10. 12 の 4 項目で、ほとんどが 2 点程の減であった。

重点方針の評価については、教員では、昨年度は、全 14 項目の質問で、85 点を超える評価のものは、4 項目だったが、今年度は全 16 項目 11 項目、90 点を超えるものが 5 項目であった。

大きな項目 1 「生徒の生命を第一に考え、学校経営を行う。」の平均が 91 点→96 点、大項目 2 「オンライン・PCR 検査をお願いし、安全安心な学習環境を整える。」「教育課程を柔軟に実施する。」の平均が 85 点→91 点と高い数値だった。大項目 3 「ハイブリッド方式による学習活動の推進」の平均は 85 点、大項目 5 「児童・生徒の心理の理解支援、生活習慣を整え、将来の生きる力に繋がる生活指導・・・」は、平均 87 点、大項目 6 の「ハイブリッドな広報活動」の平均は 84 点、大項目 7 の「医療的ケアの推進」は、平均が 87 点、と、大項目 4 の進路指導の項目を除いて高得点で、総合すると 84 点であった。

学校介護職員の評価も、ほぼ同様の傾向にあり、総合点数も 83 点と教員との差異はなかった。

#### <児童・生徒評価>

アンケートの対象は、小学部低学年 6 名、小学部高学年 14 名、中学部 6 名、高等部 14 名である。「よかったこと、成長したこと」の自己評価の部分では、回答したほぼ全員が「志村学園に入学してよかった」に「A: そう思う」と答えている。他の多くの質問項目にも「A: そう思う」を選択している。

#### <看護師・経営企画室評価>

今年度、経営企画室職員が学校評価に参加した。看護師のグループに入れ集計を行った。

学部の教育内容や取り組みなどでは、分からない点が多くあり、点数が低かった。

### (5) 評価結果の分析・考察

#### <就業技術科>

重点方針については、「常に生徒の生命を第一に考え、学校経営を行う」の項目では、保護者・教職員はおおむね適切に行われていると回答しているが、生徒はソーシャルディスタンスや三密に気を付けることに対して意識が低かった。「マスクの着用・手指消毒の徹底」については、保護者・生徒・教職員ともに高い評価であり、感染症対策を心掛けていることが伺えた。

生徒・保護者・教職員（企画室含む）の評価は 73 点を超えているが、生徒は 69 点にとどまり、昨年度より評価が下がった。保護者の評価は、「志村学園に入学させて良かったですか」「学校は 4S が行き届いていますか」「お子さんは、志村学園に通うことにより企業就労への意欲が高まりましたか」の項目において高い評価となっている。保護者からも教職員が学校経営計画に基づいた取組をしているとおおむね認められた。

教職員の取組において、人権教育推進では 3 年間連続して高い得点を維持しており、生徒一人一人を大切にされた指導を行っているとして自己評価している。課題点は、コロナ禍の影響が考えられるが、指導内容・方法の工夫をすることが低い評価になり、次年度に向けた対策の検討が必要である。

生徒への質問では、「良かったこと、成長したこと」については、全質問の平均得点が 73 点であった。特に、「いじめはどんなことがあってもダメ」が昨年度同様 94 点以上の高得点であった。対人関係の向上からいじめのない学校を意識するようになったことは、指導の成果を感じることができた。昨年度より大きくポイントを下げた項目は、「メンタルヘルスケアの重要性の認識」「通信やホームページなど学校からの情報発信の確認」である。「メンタルヘルスケア」については、コロナ禍の影響により、通常の体育の授業とは異なる活動や制約があり、また部活動の活動では、大会等が延期又は中止になるなど、心身の安定を図ることが難しかった生徒がいたためと考える。

「入学して良かった」の項目では生徒・保護者とも 80 点を超えており、保護者は生徒の 84 点よりも高い 90 点であった。「志村学園に入学後に生徒の成長したことについて」の項目では、生徒 69 点、保護者 72 点、教職員 69 点と低い評価にとどまった。過去 3 年間で低い評価となり、課題が残った。しかしながら生徒の評価の中で「社会（電車・バス・公共施設等）のマナーを意識し守るようになった」の評価が 3 年連続 80 点以上と高い評価となった。

#### <肢体不自由教育部門>

保護者の通常の学校評価については、点数で比較すると、昨年度より少し低いように感じられるが、－ポイントと＋ポイントを足した総合点数で見ると、5点の＋評価となっている。

コロナ禍で学校生活・家庭生活が制限され、ストレスが溜まっている状況下で、プラスが出ていることは良い評価と分析できる。安全・安心に対する質問に対しては、年々良い数値が出ており、安定して学校経営が行われていると、分析できる。

保護者、教員、学校介護職員共通で最も大きく評価されたのは、質問9「…ICT機器等の支援機器を十分活用していますか」であった。GIGA端末が導入され、急なオンライン授業にも対応できた点が高評価に反映されたものと分析できる。一方、保護者への質問25「…人材育成の組織的取り組み」は最も低く、若手教員への組織的育成に課題がありとみなされた。また、質問17「医療的ケア推進に向けての取り組み」は、低い点数であるものの、自由意見の中で、医療的ケアの関係保護者から、医療的ケア推進について感謝の意見が多く寄せられている。このことから、適切な情報の共有ができなかったため点数が低くなったと推測される。教員の点数も高く、さらに上昇しているにもかかわらずのことから、情報発信の仕方について課題が上がった。医療的ケアの推進について、適切に伝えるため、3月部門保護者会に医療的ケアの報告動画を配信した。

教員の通常学校評価では、「A：そう思う」という評価をしているのは、26項目の平均で今年度52%と高い数値を示した。昨年度46%。前々年度は39%と低かった評価が改善した裏には、教員自身が努力して、コロナ禍の学校を支えてきたと感じていることを表している。昨年度との比較で評価得点が下がった項目はひとつもなく、教員全体で力を尽くしてきた一年であったと分析できる。

児童・生徒評価は、自身の評価が82点と良い事から、自己肯定感も高いとみなされる。授業についての評価も、平均93点と概ね高かったが、小学部の準ずる教育課程の児童で、もっと難しいことを学びたいという意見もあった。また、普通小学校からの転入児童は、自己評価が低かったところに、特別支援学校の児童との自己肯定感の違いが見て取れた。

## 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

協議委員の助言を受け、教職員の人権意識が高まり、教育活動の質が向上した。

### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

#### <就業技術科>

今年度の教職員の評価は全体的に低い傾向であった。人権に配慮した指導では、3年連続で高い評価を維持することができた。教職員は、専門性の向上や授業力の向上のために自己研鑽することは基本的なことであり、100点になるよう目指していく。教職員は、「授業における指導内容の工夫」の項目が低い評価となっている。コロナ禍の影響により、授業時数の変更や学習活動の制限によって指導内容や方法の工夫が難しかったと考えられる。教職員は令和4年度入学生から始まる生徒一人1台端末導入に向けてICTやタブレット端末を利用した授業計画等を計画的に進めていくことが望まれる。

#### <肢体不自由教育部門>

教職員は年々、高い評価をするようになってきた。課題であった、自己肯定感の低さは改善されたと言える。ICT機器を使った授業の充実も進み、保護者の満足度も上がって、よい流れが作られたので、さらなる推進に努めていく。一方、医療的ケアの推進が進んでいるにもかかわらず、保護者に成果の内容が伝わっていないことが浮き彫りになり、医療的ケアの取り組みについて、3月保護者会で動画配信を行った。今後も広く周知させることを課題として取り組んでいきたい。また、人材育成の組織的な取り組みについても検討していく。児童・生徒についての評価については、自立活動を主とする課程の児童・生徒の評価をどのようにしていくかを引き続きの課題としていく。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

次年度も、教職員が常に学校経営計画を意識し、一丸となって取り組む組織運営を行っていく。その成果が還元されているかを、学校評価から分析する。10周年に向けて特色を生かした教育を推進するためには、就業技術科は、授業改善、オンライン一人一台端末の有効活用、人材育成を図り、生徒の模範となる教職員のロールモデルの徹底を行っていく。

肢体不自由教育部門は、児童・生徒一人一人の特性や能力に応じたICTを使った教育をさらに推進していく。GIGAスクール構想によって導入されたICT機器に加え、高等部の一人一台端末活用しての授業や、副籍交流、進路先との連携等、対外的な課題の改善を図っていく。

両部門では、引き続き、全国に向けた公開研究会を実施する予定であり、本校の教育の成果について外部の評価を受け、更なる教育の質の向上を目指していく。

## 6 「学校が良くなったと」考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 5名

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数 5名

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5						

## 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】

職員会議 1回

【成果】

職員会議における委員の意見を参考に企画調整会議及び両部門の教職員にまとめを報告した。

## 8 その他

- ・オンラインアンケートの回収率を上げるために、アンケート項目内容も次年度は見直していく。